



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2006年3月
第24号

危機管理システム研究学会第6回年次大会開催にあたって

第6回年次大会実行委員長

内田 英二 (昭和大学)

危機管理システム研究学会第6回年次大会を5月26(金)、27日(土)の2日間に渡り、昭和大学で開催させていただくことになりました。本年度の統一論題は、「リスクマネジメントの新たな展開」です。会員の皆様には万障お繰り合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

今大会では、本大会前日の26日(金)に前夜祭を設けました。昨年の第5回年次大会でパネルディスカッション「医療事故：リスクマネジメントの見地から」が企画され、活発な討論がなされました。医療の不確実性、医療現場の閉鎖性、偏ったマスコミ報道、医療現場でのリスク対応、など多くの問題点が提起あるいは指摘されたと思います。メディカルリスクマネジメント(MRM)分科会からの要請に基づいて、前日のパネルディスカッションとして「医療安全を考える：他領域に学ぶ」の開催を常任理事会で決定して頂きました。27日(土)の本大会では、8件の研究発表報告とパネルディスカッションを企画いたしました。本大会のパネルディスカッションでは「アスベスト問題(仮称)」をとりあげます。欧米では十年以上前に問題とされた健康への影響、企業賠償訴訟等に関して、日本で大きく対応が遅れた要因を検討して頂きます。

昨年末から、耐震強度偽装問題、ライブドア事件が社会問題として大きく取り上げられております。みずほ証券のJ株誤発注事件、東証取引停止、奥羽線脱線事故、ES細胞結果捏造事件(韓国)等、さまざまな分野で平時のリスクマネジメントおよび緊急時のクライシスマネジメントの重要性が問われています。ご承知のように、危機管理システム研究学会には3つの分科会があります。リスク事例サロン分科会、リスクマネジメントシステム(RMS)分科会、MRM分科会です。各々異なった領域の方々が参加され、相互の意見交換を通して自身の領域のリスクマネジメント改善策を考えています。今回の大会がこれらの方々の更なる交流を深めることができれば幸せです。

昨年4月からの個人情報保護法の施行に続いて、本年4月から公益通報者保護法が施行されます。それぞれの領域に於いて更なる対応が必要になってくると思います。本学会が、日本社会の健全な発展に貢献できるよう、会員の皆様方のご協力を改めてお願い申し上げます。

	目	次			
巻頭言	1	分科会報告	4
大会プログラム	2	事務局からのお知らせ	8

危機管理システム研究学会第6回年次大会プログラム

統一テーマ：「リスクマネジメントの新たな展開」

開催場所：昭和大学

期 日：前夜祭：上條講堂 2006年5月26日（金） 受付開始 17:00

本大会：昭和大学4号館6階600号教室

2006年5月27日（土） 受付開始 9:30

前夜祭 5月26日（金曜日）【18:00～20:00 医療安全を考える：他領域に学ぶ】
昭和大学 上條講堂

【18:00～20:00 研究発表・報告（セッション1）】 座長：内田 英二（昭和大学）

18:00～18:10 挨拶：村上 處直（危機管理システム研究学会会長）

18:10～18:30 テーマ：病院の危機管理

報告者：有賀 徹（昭和大学）

18:30～19:10 テーマ：美浜原発事故の行動科学的分析

報告者：樋口 晴彦（警察大学校警察政策研究センター）

【19:10～20:00 パネルディスカッション】

テーマ：『医療安全を考える：他領域に学ぶ』

コーディネーター：辻 純一郎（昭和大学）

パネリスト：有賀 徹（昭和大学）

樋口 晴彦（警察大学校警察政策研究センター）

大川 淳（東京医科歯科大学）

能崎 章輔（梶井田ラボラトリーズ）

松村 卓治（新東京法律事務所）

会員総会 5月27日【10:00～10:30】 進行司会：長濱 昭夫（桜美林大学）

本大会 5月27日【10:35～17:20 研究発表報告・パネルディスカッション】

【10:35～12:25 研究発表・報告（セッション2）】 座長：鈴木 敏正（日本総合研究所）

第1報告 10:35～11:00（報告15分、質疑応答10分）

テーマ：リスクマネジメントと事業継続、危機管理の相互関係

報告者：指田 朝久（東京海上日動リスクコンサルティング株式会社）

第2報告 11:00～11:25（報告15分、質疑応答10分）

テーマ：危機管理シナリオ・シミュレーションの開発

—火山噴火災害の危機管理コミュニケーションの検討—

報告者：中橋 徹也（NPO東京いのちのポータルサイト）

第3報告 11:25～11:50（報告15分、質疑応答10分）

テーマ：FMEA手法を用いたリスク評価指標の研究

—放射線業務におけるインシデントレポートを活用して—

報告者：土屋 仁（虎ノ門病院）

第4報告 11:50～12:15（報告15分、質疑応答10分）

テーマ：企業再生とリスクマネジメント

報告者：太田 三郎（千葉商科大学）

12:15～13:00 休憩・昼食

【13:00～15:00 研究発表・報告（セッション3）】座長：中村 陽子

（財）日本医薬情報センター

第5報告 13:00～13:25（報告15分、質疑応答10分）

テーマ：JR事故とHurricane Katrinaにみる危機管理の重要性について

報告者：森田 武（K&T総研）

第6報告 13:25～13:50（報告15分、質疑応答10分）

テーマ：病棟における転倒・転落事故の減少を目指して

—HAZOP等の工学的手法の病棟リスクマネジメントへの適用—

報告者：長井 健人（日本総合研究所）

第7報告 13:50～14:15（報告15分、質疑応答10分）

テーマ：リスクと危険

報告者：上野 治男（松下電器産業株式会社）

第8報告 14:15～14:40（報告15分、質疑応答10分）

テーマ：アジア通貨危機に見られた「政策危機」と危機管理

—マレーシア・インドネシアにおける事例比較—

報告者：平田 潤（桜美林大学）

14:40～15:00 分科会報告

リスクマネジメントシステム研究分科会：指田 朝久（同分科会主査）

リスク事例サロン分科会：島田 公一（同分科会主査）

メディカルリスクマネジメント分科会：寺本 研一（同分科会主査）

15:00～15:10 休憩

【15:10～17:20 パネルディスカッション】

『アスベスト問題について』

コーディネーター：村山 武彦（早稲田大学）

パネリスト：大羽 宏一氏（熊本女子大）

宮川 和雄氏（大成建設）

野田 節子氏（SGNパシフィックブローカレッジ）

17:20～19:00 懇親会 タワーレストラン昭和（入院棟17階）

司会：島田 公一（あいおい基礎研究所）

分 科 会 報 告

【リスク事例サロン分科会】

主査 島田 公一（あいおい損害保険㈱）

第20回リスク事例サロン分科会開催報告

「リスク事例サロン分科会」はマスコミ等で取り上げられた事件や危機事例を題材に、会員間で自由に危機管理・リスクマネジメントの観点から情報交換や意見交流を行うことを目的としています。

本分科会は開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。今回は、第20回分科会の報告をいたします。

1. 開催日時

2005年9月14日（水）午後6:30～8:30

2. 開催場所

於 東洋経済新報社 9階会議室

3. 参加者（16名）

板倉（ゆ）、太田、金杉、河東、鴻上、佐藤、島田、須曾、辻、出崎、中橋、中村（陽）、能崎、横井、吉川、阿部（事務局） ※50音順・敬称略

4. テーマ

巨大リスク「アスベスト（石綿）被害」問題の現状と危機管理

5. 報告者

鴻上喜芳氏（財団法人 損害保険事業総合研究所）

6. 報告内容

「アスベストとは」「アスベストの用途」「最近のアスベスト問題」「底知れぬアスベスト被害」「過去の規制状況（日本・海外）」「国の対応策」「米国の状況」「米国の解決策」「今後も残る課題」「危機管理の観点からの反省点」「行政・社会全体の問題点」について報告がありました。

7. 自由意見・情報交流内容

報告後参加者間で行われた意見・情報交流の主な発言は下記のとおりです。

<アスベスト問題が急に社会問題となった経緯>

○損保業界や建設業界は20年前からアスベストの危険性について知っていた。なぜ今になってクボタが従業員の死亡者数を発表したのだろう。

○市民団体の働きかけがきっかけで企業がトップ判断で発表を決断したと言われている。長年一人で運動していた遺族もいる。この動きが他メーカーにも連鎖したものの。

<アスベストのリスクと法規制>

○アスベストは自分達が学生の頃から危険なイメージをもっていた。なぜ生き延びているのか。

○アスベストは住宅でも台所や浴室など、熱を用いる部分広く使われ続けている。規制の法制化に反対の動きが強く成立しなかった。

○水道管にはまだアスベストが残っていると聞く。

○海外では水道管が先に問題になった。どこまでフォローアップされたか。

○東京都（環境局）ホームページの「アスベスト Q&A」の中で取り上げられている。人体への危険性というより、水道管がもろくなるとの懸念から、取替えが進んでいる。

- 水質基準ではアスベストは対象外で、心配ないとされる。
- 空中からの吸引と、水から胃に入り血液に到達する場合とは、安全性に差がある。
- 30年毎日吸引するのと、一瞬に大量に吸引するのと違いはあるのか。
- 屋根瓦を切る際出ることもあるし、古い住宅では台所、浴室から出ることもある。吸引機会は身近にあり、一般の関心も高い。
- 経済産業省から家庭用品の19製品が提起されているが、一般にはどれくらいの被害があるのだろう。
- 低濃度での吸引リスクも、継続性は要するが、危険性は大きい。
- 家庭にあるアスベストは建て直しが怖い。500㎡以上でないと規制なく野放し。浴室、天井取替えによる被曝が消費者サイドからも心配。
- 自宅の設計資料を見ても屋根は石綿スレートとなっているし、個人も逃れられないが、リスク調査には数万円かかるのが実態。

<企業の対応と日米訴訟制度の違い>

- 今回問題となった企業の視点からのリスク管理体制が見えてこない。米国で70年代から知られているリスクとは思えない対応。今回問題となった企業は当時対応策を取ったのか。将来の問題だと思っ
て対応先送りしたのか。
- 米国のような訴訟問題に発展することまで考えなかったのだろう。当時の企業は法令さえ守っていれば基準は通っており、何でもできた。
- 米国ではPL訴訟で賠償金が払えず倒産した企業があるのに、日本では訴訟は起こらないのか。
- 米国では労災補償を受取るとPL訴訟ができなくなるため一般に労災請求は控えられるが、日本では労災補償が先。米ジョン・マンビル社は賠償金が20億ドルの資産をオーバーし、連邦倒産法第11章の適用を受けた。
- 日本でもPL訴訟は可能だが、30年にわたる因果関係の立証が難しい。また、原因(アスベスト吸引)がPL法施行以前に遡る。
- 80年代の学校パニック、薬害エイズ等の事例を考えると、欧米ではさっと使用を引いている製品なのに日本に輸入品が押し寄せてきた感がある。貿易摩擦回避の側面もあったのか。事が大きくならな
いと移ろいやすい日本人の性質か、それとも何か背景にあったのか。

<アスベスト以外の巨大リスク>

- 薬害エイズも近い問題。80年代からの問題が95年以降公になった。世界的に有名なリスクについて日本はいつも後発。行政に守られているうち10~20年経過してしまった。
- アスベスト問題の次に日本に上陸すると懸念される事案として、今海外で話題になっているのは何か。
- 発ガン性のシリカ建材、カビの瑕疵保証等、住宅で健康被害が出ている。
 - 日本でも新規建築は密閉度が高くなり、以前より危なくなってきた第19回リスク事例サロン分科会開催報告。

メールアドレス登録・変更通知のお願い

本分科会の開催は開催の都度学会のホームページおよび電子メールでご案内しますので、メールアドレス未登録の方または登録済メールアドレスに変更がある方は学会事務局までご連絡ください。

【MRM（メディカルリスクマネジメント）分科会】

主査：寺本 研一（東京医科歯科大学）

（分科会開催報告1）

2005年12月16日 午後6時00分—午後8時00分場所：市ヶ谷一井田両国堂の会議室

出席者：綾部、野村、能崎、大川、中村、辻、松村、内田、豊田、藤谷、寺本、多田、板倉

課題：

1. 前回の議事録の確認：

2. 総会の前夜祭について原案が討議された。

前夜祭は、上條講堂500名位収容。どう集めるか。出欠を取る。ARIMASSからは100名以下。学部
の学生もしくは院生6名程度に協力をお願いする。

（案）統一テーマ — リスクマネジメントの新たな展開

日時： 前夜祭 5月26日（金） 午後6時から午後8時

本大会 5月27日（土） 午前10時から午後17時20分まで

懇親会 午後5時20分から午後7時まで

前夜祭のテーマ：医療安全を考える：他領域に学ぶ

午後6時から20分程度： 昭和大学医療安全管理室長 有賀先生

午後6時20分から7時： 樋口先生（三菱重工の長崎造船所火災事故を参考にした話）

午後7時から8時までがパネルディスカッション

パネリスト： 有賀、綾部、大川、樋口、松村

司会： 辻

総会のテーマについて

終了後懇親会兼忘年会を開催した。グランドヒル市ヶ谷 B1Fの和風レストラン 「ふじ」にて、和
風料理、鍋を含めて堪能。ビール、ワインで盛り上がる。

（分科会開催報告2）

2006年2月24日午後6時30分—午後8時30分

場所： 市ヶ谷一井田両国堂 8階会議室

出席者：綾部、内田、大川、北澤、辻、土屋、寺本、中村、

能崎、野村、松村、宮崎、和田、長井（記録）

議事：

1. 年次大会における発表についての確認

- ・ 第3報告について土屋氏より概要報告

次回分科会で時間があれば、10分程度のプレゼンを実施

- ・ 第6報告について長井氏より概要説明

タイトルを「病棟における転倒・転落事故の減少を目指して—HAZOP等の工学的手法手法の病棟リスク
マネジメントへの適用—」とする。

- ・ 発表は、報告15分、質疑応答10分、概要集用原稿は2～4ページ

2. 前夜祭におけるパネルディスカッションについて

- ・ パネリストを綾部氏に代わり能崎氏とする。

能崎氏が難しくなった場合は板倉氏をお願いする。

- ・ パネリストは、それぞれの主張をA4、1枚程度にまとめ、次回分科会に提出

大川氏：医療側の現状報告、医師の気持ちを紹介

松村氏：医療事故後の対応等を紹介

能崎氏：化粧品・医薬分野におけるリスクコミュニケーション等を紹介

- ・ その後、パネルディスカッションにおける議論の方向性についてフリーディスカッションした。
- ・ 次回予定：2006年4月7日（金） 虎ノ門病院

終了後「嘉多蔵」にて懇親会を開催した。総会発表に向かって議論は尽きず「もう11時半近く」という幹事の声でお開きとなった。今年、第1回目のMRM会合であったが、MRM分科会の結束の固さを示す懇親会であった。MRM分科会への参加を希望される会員の方、大歓迎です。

【編集後記】

今年も年次大会をご案内する時期になりました。今大会は開催校昭和大学のご協力により初めて前夜祭が行なわれます。前夜祭では昨年大会のパネルディスカッションを受け、活発な意見交換が行なわれるものと期待されています。また、本大会は例年以上の8報告の研究報告があります。是非とも皆様方のご参加をお願いいたします。

〈事務局〉

＜事務局からのお知らせ＞

1.分科会連絡先

教育実践分科会

主査：後藤和廣、TEL. 03-3291-8921/Fax. 3291-8930

e-mail:gotokaz@aol.com

リスクマネジメントシステム研究分科会

主査：指田朝久、TEL. 03-5288-6584(直)/Fax. 03-5288-6590

e-mail:t.sashida@tokiorisk.co.jp

リスク事例サロン分科会

主査：島田公一、TEL.03-5723-1070/Fax.03-5423-1074

e-mail:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp

メディカルリスクマネジメント分科会

主査：寺本 研一、TEL/FAX03-5803-5929

e-mail:teraken.srg1@med.tmd.ac.jp

2. 新入会員紹介

氏 名	所属機関
川村 健一	株式会社リボミック

3. 住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7

アバンネット南大井ビル (株)リムライン内

TEL. 03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086

e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp

2006年3月20日発行

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

印刷 株式会社 文典堂 03-3762-0721